レポート

第17回熱測定講習会報告

上記講習会が平成元年2月20日(月)，21日(火)の2日にわたりお茶の水の総評会館において開催された。日本熱測定学会主催の講習会は毎年1ないし2回開かれていたが，昨年は学会事務局移転のため京都で1回行われただけということもあり，久しぶりの東京での開催となった。当日の天気は必ずしもよくはなかったが，参加者は予定の人数を越え126名に達し，10名程度の方には参加を見合わせて頂くという盛会となった。久しぶりの東京開催ということもあるが，熱分析がますます広く使われるようになってきたことも恐らくその一因であり喜こばしい傾向である。参加者を，従事している仕事別にみると，高分子および薬品関係の方が多かったようである。

第1日目は矢沢彬会長の挨拶に引続き，熱分析の基礎として以下の講演があった。

- カロリメトリーの原理と測定（阪大理・徂徠道夫氏）
- 熱分析と熱物性（電総研・筆者）
- DTAとDSCの原理と測定法（東レリサーチセンター・十時稔氏）
- TGの原理と測定法（東工大工・脇原将孝氏）
- TMAの原理と測定法（宇宙科学研・横田力男氏）

第2日目は熱分析の各分野への応用に関する以下の講演があり，最後に企画幹事のお茶大理・藤枝修子氏のまとめと挨拶があった。

- 機能性セラミックスの熱分析（東工大工・水谷惟恭氏）
- ガラスおよびアモルファス材料の熱分析（長岡技科大・松下和正氏）
- 高分子材料の熱分析（九大工・高見澤橄一郎氏）
- 食品への応用（大阪府大農・深田はるみ氏）
- 医薬品と熱分析（武田分析研究所・仲町秀雄氏）

熱分析機器メーカー等による装置の展示と実演は第1日目と第2日目の昼休みおよび第1日目の講演終了後に行われた。参加して頂いたのは極東貿易，コロンビア貿易，シイベル機械，島津製作所，真空理工，セイコー電子工業，伯東，マックサイエンス，理学電機の9社であった。今回は，新しい試みとして，参加者が持参した試料の熱分析を自らの操作で行い，結果を装置メーカー，講師陣を含めて検討することを企画した。10種類以上の試料が持参されたが，実際には会場にガスボンベが持ち込めないなどの制約があり，持ち帰って分析した結果を参加者に後ほど知らせるような例が多かったようである。ともあれ昼休みの展示と実演はかなり賑やかだった。

参加者からのアンケート（回答者60名）によれば，今回の講習会の内容がちょうど良いと感じた人が最も多く(29名)，もっと基礎的な話に重点をおいて欲しいという人がほぼ同数（25名）あり，もっと高度な話を期待する人が1名，その他が5名であった。初心者のためと銘打った講習会でありながら，ベテランの方にも十分聴き甲斐のある内容をも目指しているため，参加者が幅広く分布しているものと思われるが，基礎的な話に重点をという希望が強かったことが今回の特徴である。このような結果となった最も大きな原因は，講師一人一人の持ち時間が少なく(各1時間)，基礎的なことを十分時間を掛けて説明する時間が不足したためではないかと考えている。

質問時間を十分とって欲しいという希望も見られた。実際には質問はほとんどなかったが，これはむしろ講師の方々が時間いっぱい話された場合が多かったこと，参加者が多く，質問しにくかったことなどが原因ではないかと思われる。第1日目などは，全ての講演が終了した後で，講師の一人であった十時氏が参加者から質問責めに会い，OHPを使い1時間ほど議論をするといった光景がみられた。次回からは，少なくとも基礎に関しては各講師の持ち時間を増やし，質問時間も十分設けるような配慮が必要ではないかと考えられる。

この他にも会場が狭くOHPが見にくかったなどの指摘があった。テキストの事前配布は概ね好評だったようである。今年は7月に第18回の講習会が京都で開かれることになっており，アンケートで頂いた貴重な意見を反映させ，さらに内容の充実した講習会にしたいと考えている。定員をオーバーして今回参加できなかった方も含め，ぜひ参加して頂きたい。

最後に，企画に当たった企画幹事（徂徠道夫氏，藤枝修子氏，筆者）の一人として，装置の展示・実演ならびに参加者の持参した試料の分析にご協力頂いた9社の関係者の方々，運営に当たられた学会事務局の方々に深く感謝したい。

（企画幹事・電総研　神本正行）